

【地域医療連携】オホーツク三次医療圏の脳卒中診療体制機能強化 北大病院リハビリ専門医との遠隔リハビリテーションカンファレンス

事業のコーディネーター役である道東脳神経外科病院様でお聞きして参りました



お客様名 社会医療法人明生会 道東脳神経外科病院様 ほか4病院 1施設様

■導入先

■お客様名称

道東脳神経外科病院,
広域紋別病院, 遠軽厚生病院,
北星脳神経・心血管内科病院
網走脳神経外科・リハビリテーション病院
介護老人保健施設サンヒルズ紋別



■導入商品

- 機器構成 P3000 × 7台
- ご導入拠点 左記の5病院1施設様
+ 北大病院リハビリ科様
- 導入形態 新規導入

導入の背景

オホーツク三次医療圏は、リハビリ専門医が1人も居ないため、脳卒中診療体制強化のため有識者の指導を切望し、北大病院に巡回指導を願い出しました。しかし「ぜひ協力したいが距離の遠さとマンパワー不足のため困難」との回答をいただき、それならば『遠隔カンファレンスで実現するしかない』と決意しました。

導入前の課題

当初は他社Web会議システムも検討しましたが、外部と接続するためのセキュリティ上の検討や既存PCへの追加器材の選定・設定など、各病院のIT担当者に経験がないことで導入が長引くと感じていました。

P3000はセキュリティが強固な専用機(VPN同等の通信・ウィルスにも堅牢)で、初期設定もリコーに委託でき、IT担当に苦勞させないメリットは明らかでした。更に、誰でも直感的に操作できる、まさに『道具として使える』点が気に入り、導入を決定しました。



居室の一角でのカンファレンス参加

リコーUCSをこのように利用しています

週1回、各参加機関と北大病院とで接続し、北大病院のリハビリ専門の先生との遠隔リハビリカンファレンスを開催。リハビリの計画立案・実施・結果確認に関して、北大病院の先生から真摯なご指導を継続的にいただき、この医療圏に点在している他の参加機関と共有することができています。



北大病院リハビリテーション科様の様子

導入後の効果

症例によっては暗中模索をしていたリハビリテーション・セラピスト達が、有識者の指導を受け、同じ立場同士でも切磋琢磨できる環境が構築できました。他の医療機関との連携関係は段々に活性化し、患者様の転院後の容態を情報共有できるようになったことで、転院に際してのリハビリ計画の妥当性も評価できるのが嬉しいことです、ノウハウが蓄積されていくことを実感しています。更に、デリケートな内容や微妙なニュアンスなど、転院書では記載できず伝えられなかったことが、フェースtoフェースで速やかに伝達できます。それが転院先での環境整備に適切・迅速に反映され、回復を早めるという手応えも感じています。



CT画像も遠隔共有でき、より深い理解

お客様の感想・今後の展望



オホーツク医療圏での、距離・専門医・組織の壁の3つの課題を超え、地域住民の皆さんが安心できる医療を目指していきます。訪問医療・患者様宅でのカンファレンスにも可能性を感じられ、医師と訪問看護師が高度に連携しての効果も期待できると考えています。リコーの更なる性能強化にも期待します。

道東脳神経外科病院 理事
副院長 関 建久 様



これまで、自分たちの処置が患者様の回復に本当に役立ったのか確信を持っていないことも。北大の先生のカンファレンスでは忌憚無い指摘・指導に驚くこともありましたが、小さなテーマと思うことにも真摯にご指導いただき、それが蓄積＝データベースになることが実感できます。とても大きなやりがいを感じています。

道東脳神経外科病院
リハビリテーション部 次長 楠目 剛久 様